



Design

2016年6月(第1号)

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟とは

地域包括ケア病棟は、平成26年の診療報酬改正で新設され、当院では同年8月より運用を開始しています。地域包括ケア病棟の役割のひとつには、地域からの受け入れが挙げられており、在宅から受け入れすることで疾病の重症化を避け、住み慣れた地域で住み続けることが可能となります。



当院の地域包括ケア病棟で受け入れ可能な方について (地域からの受け入れ)

Attention!

1. 痰の吸引、点滴などの医療的処置が必要なため、介護施設でのショートステイの利用が困難な方（メディカルレスパイト）
2. 短期集中リハビリテーションが必要な方（入院期間は2～3週間）
3. 摂食嚥下機能評価を希望される方
4. 痰の吸引方法など、ご家族への指導が必要な方



※ ご依頼内容によっては受け入れが困難な場合があります。



地域包括ケア病棟についての問い合わせ先
～ご意見・ご要望はどうぞ～

地域医療連携室（担当：中嶋・南出）

Tel: 0774-72-0235

E-mail: ti0001@yamashiro-hp.jp

地域包括ケア病棟で受け入れした事例（第1回）

～短期集中リハビリ目的で入院し、ADLが改善した一例～

患者さん：80歳代男性

目的：自宅内の移動能力の向上、起居動作の介護量の負担軽減

理学療法士（PT）による訓練では、①主に歩行訓練（リハビリ室で実施）、②主たる介護者である奥さんへの介護指導（病棟で実施）、を行いました。入院中には担当ケアマネジャーにリハビリ見学してもらい、情報共有を行いました。退院後は引き続き、デイケアと訪問リハビリを利用し、ADLの維持を図る予定とのことです。



～担当セラピストより～

入院中は、奥さんがよく来院しておられたため、入院前の生活状況などを確認することができ、訓練に活かすことができました。奥さんにも介護指導できました。リハビリ目的で入院を希望される場合には、“目標を明確に”して頂けると幸いです。

地域包括ケア病棟専従セラピスト 田井 博司



～病棟看護師より～

自宅でADLが低下することは、介護されるご家族にとっても大変な負担となります。リハビリ目的での入院をご希望される場合、ご家族だけでなく患者さん自身も「〇〇できるようになるまで頑張る」という目標を持ってご利用頂きますようお願いいたします。

地域包括ケア病棟看護師長 山本 雅子



～担当ケアマネジャーより～

入院前と比べて活気が出てきていて、元気な状態で退院して頂けそうです。安心しました。

看護師 Column

～生活リハビリの取り組みについて～

地域包括ケア病棟では、積極的に“生活リハビリ”に取り組んでいます。患者さんの“できること”に注目した看護を心がけています。患者さんそれぞれが、目的を達成できるようサポートしていきたいと思っています。

地域包括ケア病棟看護師長

山本 雅子



地域医療連携室からのお願い

入院日があらかじめ決まっている場合には、事前に情報提供用紙を頂きますようお願い致します。また、在宅でリハビリを受けておられる場合、訪問看護を受けておられる場合には、サマリーを頂戴できると幸いです。

